

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

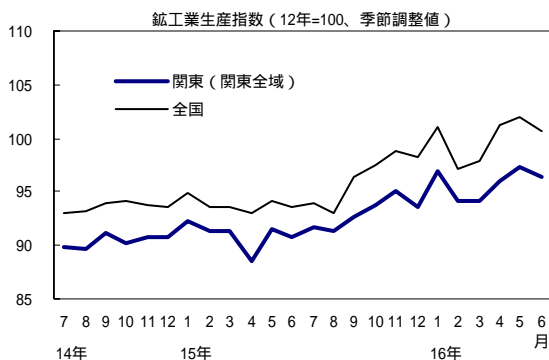
前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年5月）	今回（平成16年8月）	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。（関東全域）

一般機械は、半導体製造装置が国内半導体メーカーのデジタル家電用に加え、台湾、韓国向けの輸出も好調なことから、引き続き高水準で推移しており、4四半期連続の増加となった。化学は、好調な中国向け輸出を背景として、堅調な生産が続いており、おおむね横ばいとなっている。輸送機械は、北米向けの普通乗用車が好調なことに加え、海外での現地生産に向けた輸出用の自動車部品も増加したことから、高水準で推移している。情報通信機械は、携帯電話が新機種投入に向けた切り替え時期となったため、6月にはプラスに転じているものの、四半期では減少となった。電気機械は、引き続き半導体・IC測定器が堅調に推移し、アルカリ蓄電池も好調であったことから、増加に転じた。



（備考）平成16年6月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

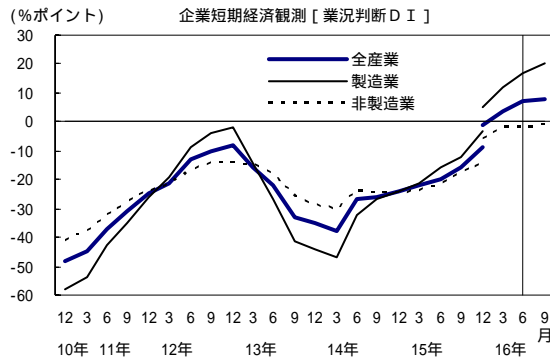
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
一般機械	13.8	6.2	3.1	4.8	4.3
化学	13.7	3.5	0.2	0.1	1.1
輸送機械	11.3	1.8	4.5	6.2	15.7
情報通信機械	8.6	0.8	9.5	7.3	11.3
電気機械	7.9	2.1	5.9	7.8	2.8
鉱工業	100.0	1.0	1.6	2.3	3.0

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

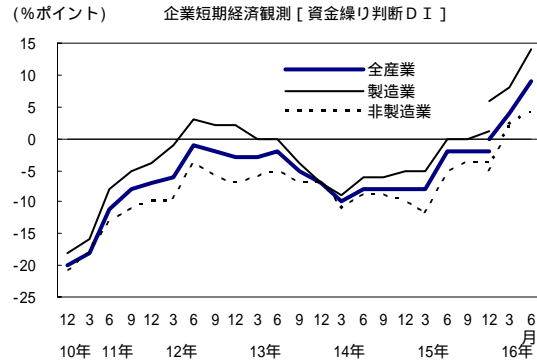
2. 4～6月期は速報値。

3. 4～6月期の化学の生産、出荷については、4月、5月確報値の平均より算出。在庫については、5月確報値。

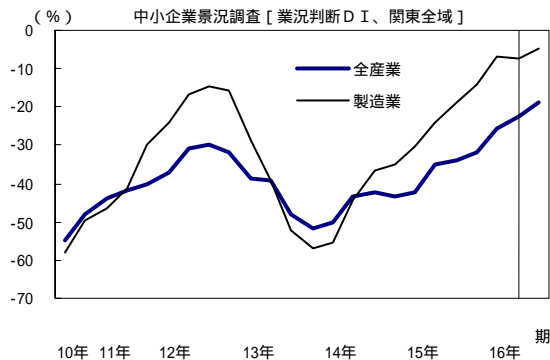
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「この夏は猛暑で、清涼飲料水等の入荷が活発ではあるが、運賃が下落して燃料費が高騰している関係から、運送業者は苦戦を強いられている (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

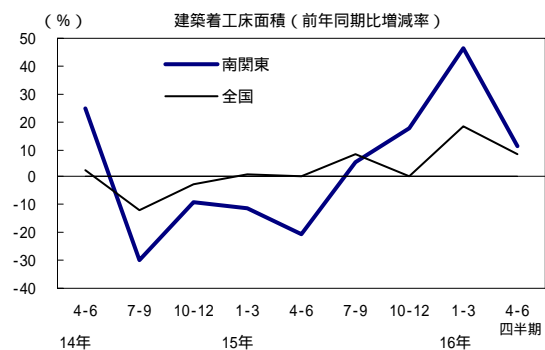
企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	3.6(11.2)	20.2(7.8)
製造業	3.5(9.0)	23.6(7.1)
非製造業	3.8(14.9)	14.0(9.4)

(備考) ()は前回 (3月) 調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

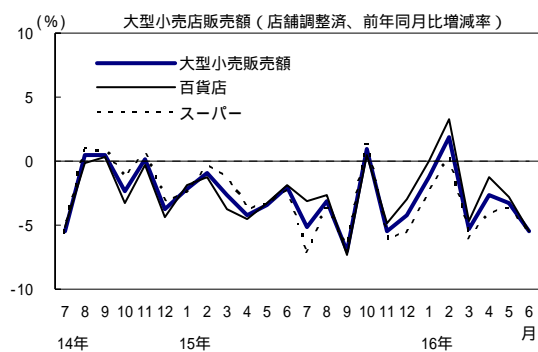
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、改装、セールや催事等の効果から、初夏物軽衣料などに動きがみられ、身の回り品もプラスとなったものの、全体ではやや前年を下回った。5月は、改装、セール効果もみられたものの、天候不順の影響などから、主力の衣料品が低調となり、引き続き前年を下回った。6月は、クリアランスセールが7月にずれたことや、日曜日が1日減少したことが影響し、衣料品を中心に前年を大きく下回り、四半期でもマイナスとなった。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の7月の店頭売上高は、前年同月比で1.0%増となっている。

スーパーは、主力の飲食料品の落ち込みは限定的であったものの、消費税総額表示の影響もみられ、衣料品、家庭用品などが期間を通じて苦戦し、全体では4か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「クリアランスセールは好調に推移するものの、短期に集中し、その後の来客数、販売量はともに低調である。トータルで見ると前年並みの推移に落ち着いている（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

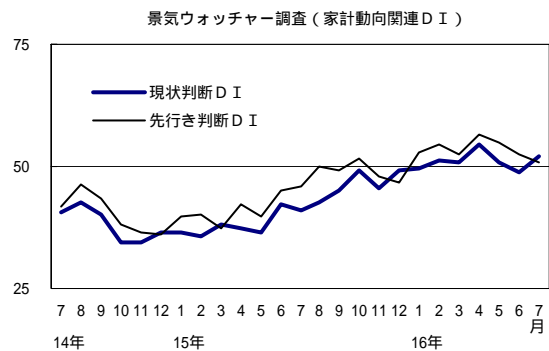
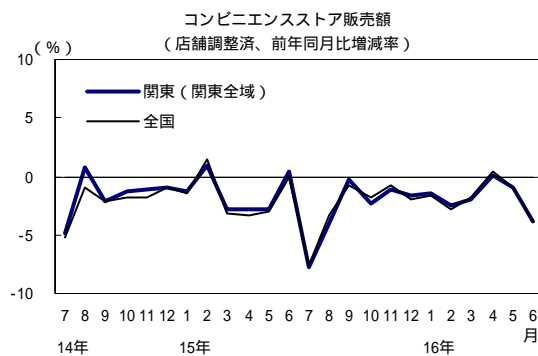


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	5.1	3.1	0.2	3.9
百貨店	4.3	2.5	0.8	3.2
スーパー	6.0	3.7	3.0	4.5
コンビニ	4.2	1.7	1.9	1.6
景気ウォッチャー	42.9	47.8	50.7	51.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。16年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

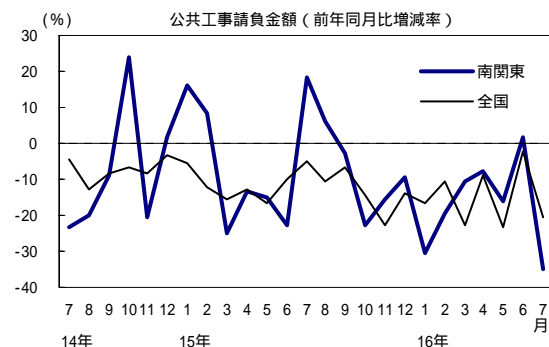
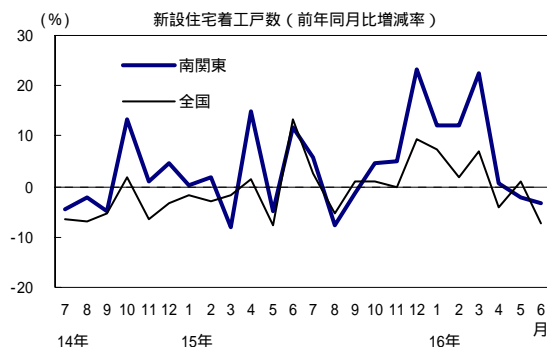
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲は前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

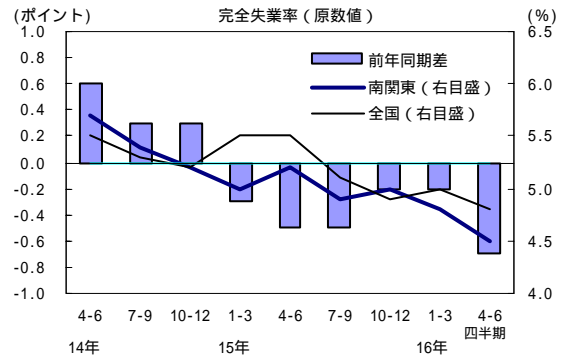
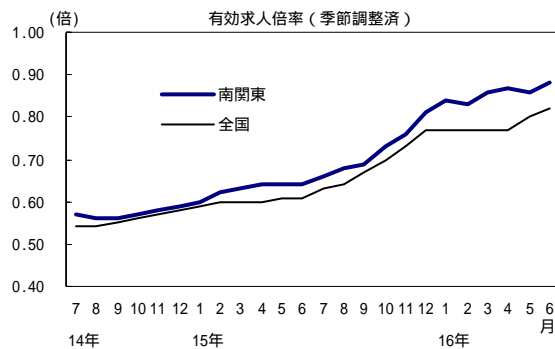


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

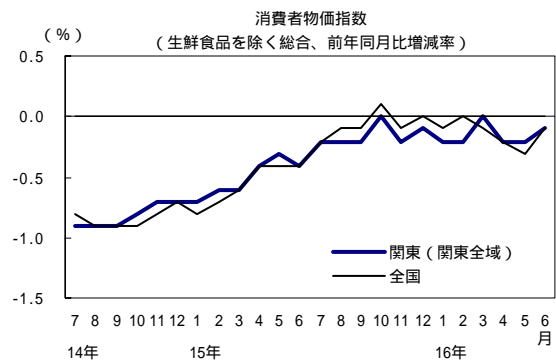
「新卒学生の内定獲得率が高まっている。また、帰国子女の新卒秋採用、第二新卒採用に多少動きがあり、これから採用を開始する企業が出始めている (求人情報誌製作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	1,208	1,163	1,172	1,075	338
(前年比)	16.1	17.3	15.2	16.9	17.8
負債総額	13,483	7,886	12,879	7,549	3,369
(前年比)	1.6	51.1	35.3	11.4	36.6



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・不況業種のテナントからは賃料の値下げ要望も出ているが、入居希望のテナント情報が活発に入ってきており、空室率に改善傾向がみられる (不動産業)

<先行き>

・デジタル家電にはオリンピック特需が訪れているが、反動が来るのではと心配している。オリンピックに向けて、各社ともデジタル家電等の新商品を販売しているが、よほど工夫、改善をしないと、7～9月の好景気を上回ることはない (家電量販店)

